

ARIBの動き

第163回技術委員会（放送分野）を開催

第163回技術委員会（放送分野）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成21年11月26日（木）午後2時～3時45分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 放送新技術調査研究会の活動について報告がありました。
- (2) ハイビジョン・システム評価用標準動画第2版の制作について報告がありました。
- (3) 携帯端末向けマルチメディア放送関連作業班の新設について報告がありました。
- (4) アルゼンチン、チリ、ベネズエラのISDB-T採用について報告がありました。
- (5) 第1回ISDB-T国際フォーラム等について報告がありました。
- (6) 第6回日伯共同作業部会技術協力・標準化分科会について報告がありました。
- (7) 平成21年度総務省所管補正予算の見直し及び平成22年度総務省所管予算概算要求の概要について説明がありました。

本技術委員会終了後、上記議事(2)の「ハイビジョン・システム評価用標準動画第2版」に収録されている動画をプロジェクターで投影し、解説を加えながら紹介がありました。



「ハイビジョン・システム評価用標準動画像第2版」紹介の様子

### 第157回業務委員会を開催

第157回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成21年12月3日(木) 午後4時00分～5時30分
- 2 場所 当会第2会議室
- 3 議事概要
  - (1) 第47回理事会及び第3回臨時総会の議題の説明がありました。
  - (2) 「電波産業年鑑2009」の発行についての報告がありました。

### 電気通信・放送行政の動き

#### 「周波数再編アクションプラン」の見直しに係る意見募集

【平成21年11月27日総務省報道発表より】

総務省は、平成20年度電波の利用状況調査（770MHz以下の周波数帯を対象）の評価結果（平成21年7月）、電波新産業創出戦略（平成21年7月）等に基づく具体的な周波数の再編を円滑かつ着実に実施するため、「周波数再編アクションプラン（平成20年11月改定版）」を見直し、別紙1のとおり「周波数再編アクションプラン（平成22年1月改定版）（案）」を作成しました。

つきましては、同案について、平成21年11月27日（金）から同年12月28日（月）までの間、意見を募集します。

#### 1 背景・目的

総務省は、電波の利用状況調査の評価結果等に基づく具体的な周波数の再編を円滑かつ着実にフォローアップするための具体的な取組を示すため、平成16年度から、「周波数再編アクションプラン」を策定し、毎年度改定・公表しています。

今般、平成20年度電波の利用状況調査（770MHz以下の周波数帯を対象）の評価結果（平成21年7月）、電波新産業創出戦略（平成21年7月）等を踏まえ、「周波数再編アクションプラン（平成20年11月改定版）」の見直しを行うものです。

## 2 意見募集対象及び意見募集要領

意見募集対象：周波数再編アクションプラン（平成22年1月改定版）（案）  
（別紙1）

意見募集要領：別紙2

## 3 意見募集の期限

平成21年12月28日（月）午後5時必着（ただし、郵送については、平成21年12月28日（月）付けの消印まで有効とします。）

## 4 今後の予定

同案について寄せられた御意見を踏まえ、「周波数再編アクションプラン（平成22年1月改定版）」を速やかに公表することとし、各周波数区分の具体的な取組を確実に実行します。

なお、「周波数アクションプラン」は、毎年度実施される電波の利用状況調査の評価結果等を踏まえ、見直しを実施していきます。

詳細は<[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02kiban09\\_000027.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02kiban09_000027.html)>をご参照ください。

### 「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」の発足

【平成21年11月25日総務省報道発表より】

総務省は、ホワイトスペースの活用など新たな電波の有効利用の促進に向けた検討を行うため、「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」を発足させます。

#### 1 目的

新たな電波利用システムやサービスが進展していく中で、地域コミュニティの情報発信手段などに電波を活用することにより、地域再生など諸問題の解決を図っていくことが期待されています。一方、電波は有限希少な資源であることから、これを国民の利便性向上につなげるためには、ホワイトスペースの活用など新たな電波の有効利用を促進することが必要です。また、このような電波の有効利用によって、新たな産業と雇用を生み出す内需主導型の経済成長の実現にも寄与していくものと考えられます。本検討チームは、以上の観点に立った上で、新たな電波の有効利用の方向性を検討し、その実現に向けた具体的な提言を策定することを目的とします。

#### 2 検討内容

国民の利便性向上につながる新たな電波の有効利用を実現するため、以下について、最新の技術動向や海外動向等を踏まえ、検討を行います。

- (1) 新たに利用可能な電波を創出するホワイトスペースの活用の早期実現に向け、その利用モデルの構築や制度的・技術的課題等の検討
  - (2) 地域再生など現代社会の諸問題の解決に寄与する新たな電波活用の方向性やその実現に向けた制度的・技術的課題等の検討
  - (3) その他
- 3 検討体制  
総務副大臣（情報通信担当）及び別紙の有識者から構成します。
  - 4 構成員  
下記のとおり。
  - 5 スケジュール  
第1回会合を平成21年12月2日（水）10時半から総務省省議室（中央合同庁舎第2号館7階）において開催し、平成22年7月を目途に提言の取りまとめを行う予定です。

#### <構成員名簿>

（敬称略、五十音順）

座長	<small>（いとう）（すすむ）</small> 伊東 晋	東京理科大学工学部 教授
	<small>（きむら）（たろう）</small> 木村 太郎	有限会社木村太郎事務所
	<small>（ごとう）（みきお）</small> 後藤 幹雄	日本文理大学経営経済学部 教授
	<small>（どい）（のりひさ）</small> 土居 範久	中央大学工学部 教授
	<small>（とうくら）（よういち）</small> 東倉 洋一	国立情報学研究所 副所長 教授
	<small>（ところ）（まりお）</small> 所 眞理雄	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長
	<small>（なかむら）（いちや）</small> 中村 伊知哉	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
	<small>（ふじわら）（ひろし）</small> 藤原 洋	株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長
	<small>（みとも）（ひとし）</small> 三友 仁志	早稲田大学国際学術院アジア太平洋研究科 教授
	<small>（むらかみ）（てるやす）</small> 村上 輝康	株式会社野村総合研究所 シニア・フェロー
	<small>（もりかわ）（ひろゆき）</small> 森川 博之	東京大学先端科学技術研究センター 教授

詳細は、<[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02kiban09\\_000024.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02kiban09_000024.html)>をご参照ください。

#### 編集後記

歴女、歴男なる言葉が生まれるほど歴史マニアが増えてちょっとした戦国歴史ブームが続いています。そこでARIBニュースNo.705号（9月8日）に続いて、江戸城の門の雑学をもう1つご紹介いたします。

現在の皇居正門の元の名前は西の丸大手門でしたが、明治21年(1888年)の明治宮殿造営のとき、この門のすぐ前にあった高麗門を撤去し、名称も皇居正門と改めました。建造は3代将軍徳川家光公の時代と推定されています。

皇居正門の「石橋」は、皇居前広場から見て、手前の眼鏡型の橋で、江戸時代には「西の丸大手橋」と呼ばれる木橋が架けられていました。「石橋」は、その木橋に替わり、明治20年12月に美しい石造二連アーチ橋に架け替えられました。

ところで、田舎者の私はこの橋が二重橋と思っていましたが、本来の名は皇居正門であり二重橋ではありません。

では、本当の二重橋はというと、この皇居正門（石橋）の西側奥にある鉄でできた橋のことです。（昔、橋桁が二重構造になっていたのが名前の由来のようです。）

皇居の参拝は、この皇居正門から二重橋を渡って皇居に入っていく事になります。機会がありましたらこの雑学を思い出してください。

（山田）

[ページの先頭に戻る ▲](#)